

パブリックコメントの回答について

明知鉄道沿線地域公共交通計画(案)及び恵那市地域公共交通計画(案)へのパブリックコメント募集手続きについては、令和3年12月9日から12月28日まで募集し、3名の方から意見が提出されました。いただいた意見と考え方は以下のとおりです。

いただいた意見	市の考え方
いよいよ高齢化が進む此れからの時代、公共機関での乗り物も便の縮小で益々不便になってきます。病院、買い物等々免許証返納し、独居老人の方々の暮らしの大変さが伺えます。バス停にも遠くましてやタクシーも頻繁には使えません、マイクロバス程度の車で巡回して頂くと、とても便利で有難い限りです。僻地に限らず結構町中でも不便を感じておられる方も多々あります。必要最小限の生活の安心感を保てる様、恵那市の取り組みを期待と共に、早くの実現化を願います。家から出かける事は人との繋がり又日々の生活に張り合いが出来、充実した老後を目指せるのでは無いでしょうか。	2つの計画(案)では、「まちなか移動手段の確保」として、恵那駅から市街地周辺の店舗や医療機関などを循環する新たな路線を運行することとしております。この運行の車両は、小型車両を用いた運行の計画をしており、小型化することにより、これまで行き届かなかった所までの移送が可能となり、きめ細かなサービス提供ができると見込んでおります。
公共交通の利用を促すためには、ラストワンマイルへの取り組みが重要であり、その部分を担うためにも自家用車を使った有償運送など各地域に根ざした活動を推進すべきである。さらに、地域にいくら情熱があっても事業の形にする事はとてもハードルが高いので、P21の3の取り組みをもっと踏み込んで、組織の設立や育成、キャッシュレスのソフト開発など運営のノウハウまでの人的、財政的な支援が必要である。また、駅前や振興事務所の前などを、乗り換えのハブに使うなどきめ細かい運用を行う事で、利用度の向上を目指すべきである。	バスやタクシーなどの公共交通機関によって住民に十分な輸送サービスが確保できない場合は、NPO法人などの非営利団体等により、自家用自動車を使用した有償運送が可能です。 本市では、「恵那市地域公共交通計画(案)」の下位に「恵那市公共交通空白地有償運送運営基本計画」を定めており、その中で、交通空白地有償運送に関する運営方針を定めています。運転手の養成講座を開設する以外に、有償運送とバス路線とのネットワークの調整や運営主体が行う登録申請手続きの支援、車両の支援があり、地域の交通を支える仕組みを構築しております。 また、駅前などの乗り換えハブの利用について、今回の2計画において、「待ち時間を有効活用できる結節点」を整備することとしております。計画に基づき、対象となる施設を選定し、地域のニーズに合わせて施設整備ができるよう調査検討を進めていく計画であります。

いただいた意見	市の考え方
現状として明智鉄道、バス、タクシーを利用する人が少ない。考えられる原因として、明智鉄道は「ダイヤが不便」「恵那駅、岩村駅、明智駅以外は、街の中心部から離れているため不便」「駅周辺に駐車スペースが無い」。バスは「ダイヤが不便すぎる。終バスの時間が早すぎる」「住宅から停留所までの距離があり、子ども連れやお年寄りを利用するのが困難」「バリアフリー対応型バスではなく、未だに黒煙を吐いているバスである事。全く環境に配慮が足りない」。タクシーの場合は、「多くの方は、スライドドアを採用しているミニバンを所有しており利便を感じているが、未だに後席の乗り降りがヒンジ式のドアで非常に不便」 共通として「交通系のカードを採用しているのか不明または明記していない」 意見として明智鉄道は、JR中央線のダイヤに合わせる事が最低条件。昼間の運行は、通勤や通学を見込めないで貨客車+イベント列車の運行。蒸気機関車をリニア開通までには岩村～明智間を走らせる。寒天列車などのイベント列車内の席が中央に向いているが、風景を見れるように外側に向けるように改装する。今後は人口減少による通勤や通学、定期購入者は伸びない可能性があり、思い切って観光列車に特化するべきではないでしょうか。そのためには駅はもちろん沿線の整備は欠かせないと思います。バスは、住宅街に入れない大型バスの廃止。ミニバンタイプの車を採用し街中に停留所を設ける。お年寄りなど足腰の不自由な方のために、バリアフリー車の採用。高齢者の免許返納を促すルートの設定。恵那病院、恵那駅、郵便局、市役所、ショッピングセンター、住宅街の循環バスの採用。便利になれば免許証の自主返納の見込みが増え、事故防止に繋がると思われます。タクシーは、高すぎるタクシー料金の見直し。スライドドア車の採用。アプリによる配車手配。高齢者(免許証返納者)と乳幼児を連れている親子の年間パスポート配布。全国的に高齢者による交通事故が多発しています。個人に配慮をした交通網を構築することが事故の減少につながると共に、暮らしやすい環境が人口増加に転じると期待出来ると思います。	明知鉄道については、朝夕に多くの通学性が利用することから、可能な限りJRとの接続に配慮したダイヤ設定となっております。しかしながら、日中は70分に1本程度の運行となったままとなっておりますので、1時間に2本のダイヤのJRとの接続もしづらい状況であります。このため、現状の設備を最大に活用して、1時間と1本と1.5時間を組み合わせた準パターンダイヤを設定したり、地域各種団体と連携し、観光列車の利用を呼びかけるなど、広報・周知の充実させていきます。 バスについては、2計画に基づき恵那駅から市街地周辺の店舗や医療機関などを循環する新たな路線を運行することとしております。この運行の車両は、小型車両を用いた運行の計画をしており、小型化することにより、これまで行き届かなかった所までの移送が可能となり、きめ細かなサービス提供ができると見込んでおります。(再掲) タクシーについては、近年では国で新たな運賃制度が検討されており、全国的に配車アプリやキャッシュレス化等のIT活用も進んでいます。こうした状況や利用の少ない昼間の時間帯において、利活用できるよう実施に向けた検討を進めています。 地域公共交通を持続可能なものとするため、地域住民、事業者、行政が連携して取り組み、高齢者など公共交通を必要とする人や観光客をはじめとした来訪者が、安心して移動できる環境を整備していきます。